

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②事業者情報

名称：	越谷どろんこ保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	平山 靖	定員(利用人数)：	90 名
所在地：	〒343 -0002 埼玉県越谷市大字平方3207-1	TEL	048-970-2280

③評価実施期間

平成26年11月17日（契約日）～平成27年3月30日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

<「にんげん力」を身につけるための取組の幅を広げ、子どもは多彩な体験をしています>

保育理念は、『にんげん力。育てます。』、「にんげん力」を身につけるために必要な遊び、野外体験を提案実践し、自分で考えて行動する力をはぐくみます。法人共通の理念で達成に向けてさまざまな取組を行っています。

外遊びに重点を置き、子どもは自然物に触れて、物を作ったり、遊んだり探したり、採取したり、飼育、栽培という基礎基本である原体験を大切にしています。畑仕事、稲刈り、めだかとり、霜柱を踏む、すすきを取る、落ち葉でドレスを作るなど、四季折々の自然に触れ、遊びを楽しんでいます。

園庭には、築山、木登りをできる桜、樫などの木を数多く植樹し、基本ははだしで駆け回ります。やぎとにわとりくわがたを飼育し、子どもが進んで（命の）世話をしています。たき火コーナーで、寒い冬は毎日たき火をし、パン作りをすることもあります。今年度は、用務員、保護者の協力を得て子どもが道具を使ってまきを切ることに挑戦しています。海外研修などから発想もさらに広がり、子どもの労働の力も大切であると考えています。園長は職員に、前向きに取り組み、実践を通して学ぶように声をかけています。地域の人との交流では、「やぎのえさ（草）をもらう対価に子どもがお手伝いをする」と地域に声をかけて、やぎを連れて出かけます。ほかにも、毎月銭湯に行ったり、毎週商店などを訪れたり、地域の協力でフォークリフトの乗せてもらったり、施設で科学を体験したりするなど、さまざまな交流があります。

「にんげん力」を身につけるための取組の幅を広げ、子どもは多彩な体験をしています。

<地域支援活動「子育て支援センターちきんえっぐ」を多くの方が利用しています>

子育て支援センターちきんえっぐ（職員2名）を併設し、年間1000名以上の利用者があります。子育て支援センターから毎月発行している「ちきんえっぐだより」には月間の予定や活動の写真とコメントが掲載され、園のホームページでも閲覧できます。「毎週水曜日の「自然食堂」では、親子でクッキングを行い、芋きんちゃくや米粉と小松菜でヘルシー蒸しパンなどを作ります。専門講師による無料の講座や制作活動、歯磨き講習、ベビーマッサージや浴衣の着付けなど、地域の子育て中の保護者が興味のもてる企画が盛りだくさんです。月曜から土曜は園庭を開放し、木曜日は近くの公園で青空保育と子育て相談です。子育て相談は、支援センターでも常時受け付け、内容によっては、職員のほか園の看護師、栄養士も対応しています。支援センターを利用している保護者から医療機関に関する情報を収集し、掲示して紹介し、利用者にとって大変役立つ情報となっています。

今後、地域の人口増加が見込まれており、核家族への対応として保護者が孤立しないよう保護者同士の交流イベントなどの必要性にも着目しています。ニーズを把握しながら、地域支援活動に力を入れて取り組んでいます。

<職員の育成と質の向上に向けた研修が充実し体制が整っています>

外部研修を含み、法人の研修については、「スタッフハンドブック」に詳しく記載され、全体の研修や階層別の研修を行っています。全社員研修は年2回、運営方針を始め、ロールプレイや3分間スピーチも行い、定期的に法人の方針を確認し理解を深める大切な研修です。新人研修として、現場OJT研修、「スタッフハンドブック」研修、コンピテンシー（高業績者の行動特性）研修、新入社員には、マナー、人権、畑畝作りにいたるまで4日間の研修を行います。北欧で現場を体験する海外研修も実施しています。年度当初、職員に研修へのアンケートを実施し、本部の意向と本人の希望などを勘案して研修計画を決定していきます。また、園内研修では、一人ひとり学び合うという意識を持って取組、コミュニケーション、自己分析、職員としての課題を発表するスピーチ力などを学び合います。毎日、PDCAに基づく振り返りを午睡時間に15分行うほか「スキルアップシート」による自己評価も行っています。現場OJTでは、おむつの替え方や汚物処理の方法などを身に付けます。

毎月系列園の園長が集まり「保育の質を上げる会議」を実施し、各年齢の成長発達や保育環境の設定方法などについて話し合い、園で報告を共有します。

職員の育成と質の向上に向けた研修が充実し体制が整っています。

◇特にコメントを要する点

<園の取組を保護者に伝え理解してもらう力の育成などを期待します>

園の取組を保護者に伝え、理解してもらう機会に保育参加、個人面談などがあり随時受け付けていますが、申し込みは少ない状況です。決して、保護者の不満が多いというわけではなく、開園3年目となり、初の第三者評価のアンケートに回答した保護者は園を総合的に評価すると全員が満足以上でした。園では、保護者とのコミュニケーションを密に取り保育内容をきちんと伝えたいなどと考えて取り組んでいます。園内研修で伝え方などを学び合い、行事で日頃の保育を紹介するなどしています。今後は、保護者に参加してもらえるような工夫や、園の取組を伝え理解してもらう力の育成などを期待しています。

<安全管理と衛生管理のさらなる向上を期待します>

周囲には建物が少なく夕方暗くなるため部屋に電気をつけ、入り口のイルミネーションを灯して明るく楽しい雰囲気を作り出すように工夫しています。安全面に於いては、日頃から訓練をして備えています。課題があるようです。地域の状況を勘案し法人本部に相談して検討されることを期待します。

衛生面や整理整頓については、点検表を確認しながら沐浴室や保育室などの管理に取り組んでいます。職員は子どもの主体性を大切に子どもが掃除をしやすいように配慮していますが、ときとして取組が十分でないことがあるようです。また、感染症の拡大防止に向けた対応に、嘔吐処理セットの設置をしていますが、より迅速に対応できるような準備を望みます。安全、衛生管理のさらなる向上への取組を期待します。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価は、日頃取り組んでいる保育内容および運営全般について外部からの視点で気づきを得る非常に有効な取り組みであると認識しています。

ここで明らかになった課題、成果、問題点などを職員及び法人全体で共有し、より一層質の高い保育サービスの実践のためにどんな取組が必要か、具体的なアクションにつなげてゆきたいと考えています。

よろしくお願い致します。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり